

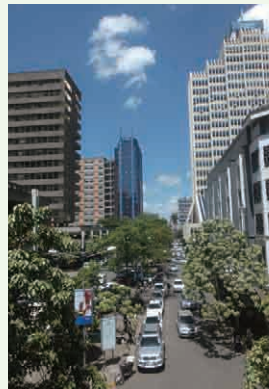
ケニア

ナイロビ都市開発マスタープラン策定プロジェクト 技術協力プロジェクト(2012年11月～2014年8月)

2030年までに中所得国になることを目指すケニアの首都ナイロビ市は、経済規模のみならず、政治的、社会的にも非常に重要な位置を占めています。しかし、ナイロビ市では、包括的な都市計画が1973年からおよそ40年間も更新されておらず、都市開発の方向性が定まっていませんでした。

1980年には80万人であったナイロビ市首都圏の人口は、その30年後の2009年には310万人となり、さらに2030年には520万人にまで増加すると見込まれています。こうした人口の急増に伴う交通渋滞やスラムの拡大、環境悪化などの問題は長年放置され、経済活動や住民生活に著しく支障を来すほど深刻になっています。今後の発展には、交通網、居住環境、廃棄物処理、そして給水などの整備を含む様々なセクターにまたがる整合性のある都市計画を策定することが必要となります。

このプロジェクトでは、同市における2030年を目標とした都市開発マスタープランの策定を支援しました。総勢18名のコンサルタントを派遣して、都市計画、土地利用計画、道路・都市交通、環境管理、産業振興、電力計画、上下水道排水計画、人材育成など多岐にわたる分野で、日本の技術と経験を活かした支援を実施しました。たとえば、交通実態調査を行い、その結果をもとに将来の交通需要予測を行い、ナイロビ市の都市計画に反映しています。日本が支援して策定されたマスタープランが、2030年を目標としたナイロビ市の開発に役立つものとなり、第4次ナイロビ市都市開発計画として政府により承認されることが期待されます。



ナイロビ市役所から市内のビジネス街を望む(写真: JICAプロジェクトチーム)